



酒匂の清流

令和4年11月1日(火)発行

校長 津田 将美

自分らしさの発揮 ～体育発表会より～

絶好の晴天…とまではいきませんでした。暑くもなく、寒くもない体育発表会日和となりました。子どもたちは、朝から本当にいい顔をしていました。

長い道のりを歩いての河川敷グラウンドでの練習。一回一回の積み重ねで、子どもたちの演技も表情もだんだんと豊かなものに積みあがってきました。そして、どの学年も本番では最高の演技ができたと感じました。

体育発表会に向かって進んできたという目標はいっしょでも、取り組みは人それぞれです。運動が苦手な子もいます。ダンスが苦手な子もいます。それでもひとつの目標に向かって、励まし合い、関わり合いながらそれぞれの過程を一步一步進んできたことは、貴重な経験となりました。それは、この日の子どもたちの表情からも伝わってきました。

3・4年生の「松田小ソーラン」は、子どもたちの真剣な表情が印象的でした。ダイナミックなソーランの動きに合わせて見せる子どもたちのひきしまった表現は、この演技にかける想いの強さを感じました。はっぴをなびかせ踊る姿には、頼もしささえ感じました。



1・2年生の「ワン・ツー・スリー きみにきめた!」では、楽しそうに踊る子どもたちの姿がグラウンドいっぱいに広がりました。キラキラと光るポンポンに負けなくらいの表情で、子どもたちの笑顔も輝いていました。

隊形移動もあり、合わせるの大変だったと思いますが、本番の松田中学校のグラウンドでも、子どもたちのリズムに乗ったはじける笑顔を見ることができました。



5・6年生の「Wish～始まりの一步～」は、学年団が融合したすばらしい演技でした。6年生が5年生に範を示すことで、全体がバランスのとれた、ひきしまった演技となりました。ダイナミックなフラッグの動き、風を切る音、静止の瞬間、どれもがひとつの作品として子どもたちが自分たちの想いを精一杯表現した成果として伝わってきました。

「かっこいい…」
というつぶやきが聞こえてきました。

下級生からのあこがれにつながる演技となりました。



保護者の皆様におかれましては、最後まであたたかい声援をいただき、本当にありがとうございました。閉会式の学校長の言葉の中でも話しましたが、ルールを守り整然とあたたかく応援してくださる姿は、子どもたちにとっても良い範となりました。前列の方が後列の方も観られるようにさりげなく座って参観される姿は、本部席から見ている、とてもあたたかく、気持ちの良いものでした。

松田中学校のみなさんにも、この間自分たちの使用を控えていただくなど、全面的に協力をいただきました。遠くから応援してくださる地域の方々なども含め、多くの方の善意に包まれた松田中学校での運動会、体育発表会の3年間が終わりました。

来年度からはいよいよ新しい松田小学校のグラウンドでの運動会、発表会となります。制限の多かったこの3年間だからこそ、できたこともたくさんありました。その中で力をつけてきた姿を来年度は新しいグラウンドで精一杯発揮してほしいと思います。

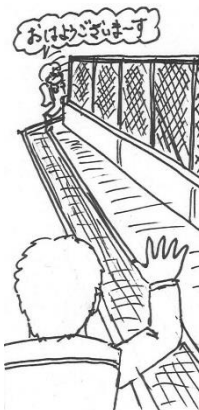
気持ちの良い朝

朝、職員通用門を出て校門に向かおうとすると、一人の子がちょうど門に入っていくところでした。少し目が合ったのであいさつをしようと思ったのですが、機を逸しました。校門まで行ってあいさつをしようと歩を進めると、その子が後ろ向きに校門から顔を出しました。

「おはようございます！」

きっと私と同じ気持ちだったのでしょう。ひょこっと顔を出して、気持ちのいいあいさつをしてくれました。

あいさつって、やっぱりいいものです。たったこれだけで、とてもいい気持ちになるのです。



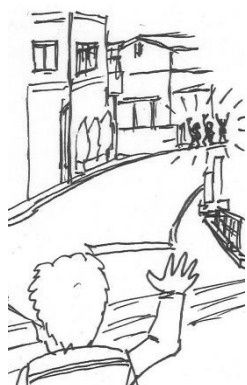
「おはようございま〜す」

いつも以上にさわやかな気持ちで通学路を回っていると、今度は小さくて、大きな声が聞こえてきました。おそらく遠くから…精一杯の声で呼びかけているだろうかわいらしい声です。

曲がり角の先を見ると、まだかなり遠くにいる低学年の児童何名かが、一生懸命手をふっています。私もうれしくなって、思い切り手をふり返しました。

こんな光景がたくさん見られる朝の通学路は、とてもすてきな空間です。

私も子どもたちや地域の方に元気をもらいながら、元気に歩いています。



輝く鍋のおはなし

「まちがいなく、今年一番の出来です!!」とは、5年生の林間学校でふれあいの村の方からある班の子どもたちがもらった磨いた鍋への賛辞の言葉です。それほどピカピカのお鍋だったので、

「これは、学校便りで紹介しよう…」という言葉が思わずこぼれました。それを聞いていたある子から、前号(11号)を出した日に言われました。

「校長先生、『まちがいなく…』が書いてなかったよ。」

「あっ…」
反省と共に、子どもたちの中にも学校便りを読んでくれている子がいるんだなあ、とうれしい気持ちが湧いてきました。

きっと、自分たちの残した成果に自信があったのだと思います。また、仲間と協力したことが心地よい経験としてしっかりと心根の部分に残っていたのだと思います。

仲間と協力することで、鍋を磨きながらも、心も磨いていたのでしょう。いつまでも大切な思い出、大きな自信として心の中に残ってくれるように、謹んでエピソードを紹介させていただきました。

前号で紹介したように、5年生の磨いた鍋はどの班もピカピカでした。6年生からバトンを受け継ぐ過程で、いろいろなものをきれいに磨き上げ、最高学年への階段を一步一步登ってほしいと思います。

